

泡原の恩者

あわらのちようじや

これは香美町畠住区のお話。泡原は荒原とも書いて、山と山との間で日あたりがよくなく、土もやせていて、作物があまり育たないところから、そう名前がついたと言われています。

昔々、香住谷の泡原に、三郎太という男が住んでいました。三郎太は大変欲ばかりで人使いが荒く、鬼のように恐がられていました。

この三郎太の娘であるあやめが十八歳になつた春、北村という家に使いをやり、「七郎どのを娘のむこにいただきたい」と申し入れました。

北村の家は栄えた家でしたが、昔の勢いはなく三郎太からもお金を借りていました。

三郎太が「貸した金も返さんでいい。
たゞ、本と扇子はつぱいの土産こな

たたか体と扇子いふはいの土たに
でええ」と言つので、

安心して七郎をむこにやりました。

ところが、七郎は昼も夜も休みなく働かさるようになります。とうとう七郎は実家に帰つてしましました。

次の日、仲人がやつてきて、「帰つてこん
ええから、扇子いっぱいの土をくれ」と



さすがの三郎太も自分のしてきたことを後悔して土地を寄付し、巡礼の旅に出かけて二度と帰つてしませんでした。やがて不思議なことに、池にはあやめの花が一本に二つずつ咲くようになつたそうです。

ひどい仕打ちにあやめは、「夫に謝りたい」と家を飛び出しますが、追っ手につかまりそうになり、池に身を投げてしまします。そして、それを知った七郎も同じ池に身を投げました。

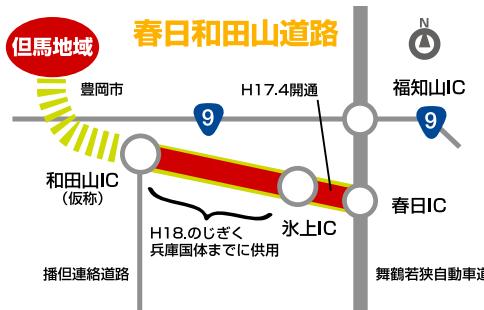
北近畿豊岡自動車道
春日一和田山線まもなく開通!

道の駅「但馬のまほろば」今秋オープン!

「のじぎく兵庫国体」前に開通予定の北近畿豊岡自動車道・春日和田山道路。新たな道の駅「但馬のまほろば」の整備も順調に進んでいます。ここには南但馬の歴史・文化遺産を展示するセンターも併設され、地域の交流拠点としての活用も期待されています。



春日和田山道路・山東PA「道の駅 但馬のまほろば」は、但馬地域の出入り口に位置し、標高140mの高台にある。駐車場には無散水融雪装置などを備える。



綺羅きらう!



『綺羅きらう』——夏の日

ひまわり
カンナ
ぽんぽんダリア

青い空に 入道雲
お日様が 眇しくて
はしゃいでしまう
夏の土手

夜空を染める 花火たち
なれない下駄で からかうりん
屋台のあかり ゆらゆりと
とびり

はぐれなじみうごと
そつと
手をつけないだ
夏まつり
綿菓子
りんご飴

KEIKO・萬桂 (けいこ *ばんけい)



【PROFILE】

豊岡市出身。本名植村桂子。幼い頃より祖父母、母より書道を学ぶ。多摩美術大学染織デザイン科卒業後、テキスタイルデザイナーとして活動。ハウスデザイナー、フリーランスデザイナーとして、小泉今日子など著名人の衣裳デザインを手がける。渡仏経験を経て、帰郷。但馬の自然から受けるインスピレーションを体感する中から生まれた、墨を基調にした独自のスタイルが国内外で注目されている。

銀座小野画廊、三越、パリなどで個展を重ね、日本アートアカデミー賞、上野の森美術館「日本の自然を描く展」優秀賞などを受賞。曾祖父、植村萬頃(但馬巻島派俳句の始祖)の雅号を受け継ぎ、様々な表現活動を行っている。

◆Kei* art studio・ばんぱん桂絵教室 (0796-22-2788)

◇兵庫県立円山川公園美術館主催『但馬Style』(6/25まで)に出展中

◇城崎温泉まちかどギャラリーにて個展開催中 (問)城崎商工会 0796-32-4411

